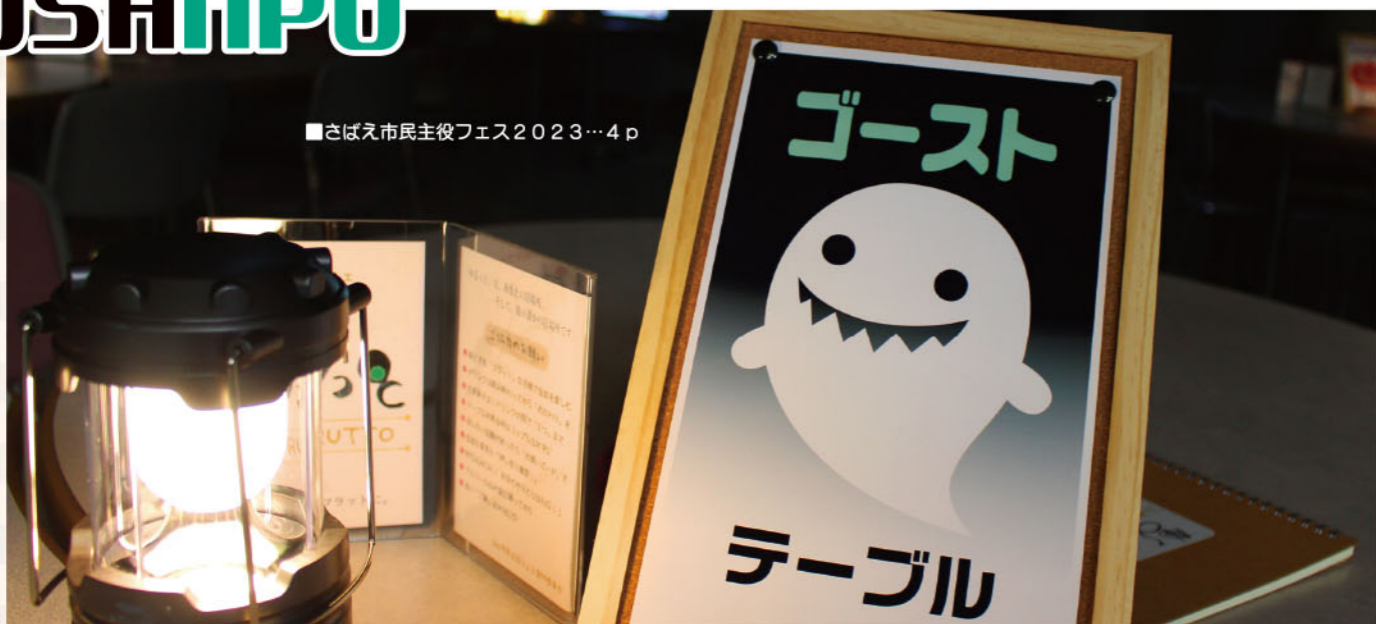


お散歩感覚で
鯖江の市民活動がわがっちゃらブックレット

OSANPO

~12歩目~





目次

巻頭特集「さばえ市民主役フェス2023」	4p-7p
コラム「『市民主役』について考えましょう」	8p-9p
巻末特集①「サバヌシ総会2024」	10p-11p
巻末特集②「チラシ&ポスターで振り返る 今年度のさばえNPOサポート」	12p-13p
ライター座談会	14p-15p

『OSANPO』について

- ぶらり“お散歩”感覚で、さばえのNPOや市民活動のことが、気軽に楽しくわかる…それが、「OSANPO」のコンセプトです。
- タイトルに隠れた「NPO」(非営利の組織)は、実は身近な存在で、その気になれば、今すぐ、誰でも参加することができます。…そう、まるで“お散歩”のように☆…



◆巻頭特集◆

さばえ市民主役フェス2023を3つの柱で振り返る



さばえ市民主役フェス2023

市民主役デザイン展
市民主役カフェ

2023.10.13(FRI) 19:00-21:00
10.14(SAT) 10:00-22:00
10.15(SUN) 10:00-18:00

会場：鯖江市民活動交流センター

無料カフェ



さばえ市民主役フェス2023

主催：市民主役フェス実行委員会 後援：鯖江市
日時：令和5年10月14日(土)10時～15日(日)18時
令和5年12月9日(土)15時～他
場所：鯖江市民活動交流センター／鯖江市文化の館 多目的ホール

『3つの視点で構成された市民主役の祭典』

2022年の秋の「さばえ市民主役EXPO2022」には参加されませんでしたか？

鯖江の市民協働の歴史をひもとき、未来に向けて次の一步を探るイベントとして、『いま、私にできること』をキャッチコピーに開催されました。

そのDNAを受け継いで2023年の10月から幕を開けたのが「さばえ市民主役フェス2023」です。

内容は主に3つのパートで構成され、各々が、独立した目的や役割を担っていました。

- 市民主役カフェ
- 市民主役デザイン展
- 市民主役アワード

それぞれ「市民のコミュニケーションと交流のできる居場所」「鯖江で市民主役を体現する活動団体の紹介と新しい担い手へのアピール」「市民主役の実践者を市民による推薦で顕彰、その素晴らしさを共有・発信」という

内容で企画・実施され、盛況のうちに幕を閉じました。

『それぞれの市民主役』

今さらですが「市民主役」のコアは市民一人ひとり。つまり、個人個人でイメージする市民主役のあり方も多彩と言うことではないでしょうか。

その「多様性」を地域のエネルギーや潤滑油として巡らせよう！

それが、このフェス全体に流れていた方向性だったようにも思います。

主役である市民にとって、地域のことと興味を持った関わりたりすることは「生活や人生の一部」ですよね。

だからこそ、そこに関わることへの「楽しみ」だって大切です。

今回のフェス祭典にも、たくさん「楽しみ」がちりばめられていたようです。

今号の巻頭特集では、そんな「市民主役フェス2023」の記録を、それぞれの「柱」ごとにまとめ、写真などみただけ掲載しながらレポートしてみたいと思います。

市民主役カフェ

『主役たちの裾野を広げる居場所を作ろう』

無料のカフェスペースは、その名も『主役カフェ ゆるっと』。

デザイン展と会場を共有しながら、「市民主役」に馴染みが薄い方でも、発見や出会いのある「居場所」として楽しんでもらおうという企画です。

10月13日(金)には、前夜祭として「絵本『半日村』読み聞かせ会」を開催、フェスの口火を切りました。

確かに鯖江には、全国でも知られる「市民主役」のトップランナーもいて誇らしい限りですが、でも本当の「市民主役」のまちって、普通の市民一人ひとりが普通の生活を送る中で、普通に地域のことについて話したり行動を起こしたりできることなんじゃないかしら：そんな風にも思いませんか？

市民が「居場所」と感じられるのは、きつと普段着で、自然と集まれる場所。それも、肩書きや立場の違いを超えて、フラットな関係でいろんなコミュニケーションができる空間ですよね。

カフェでは、メインのイベント開催日の後も『ハロウィンブラックカフェ』や『女性新人議員さんとおしゃべりカフェ』など、本音での交流の場もプロデュースしました。



▼「水ようかんフェス」の来場者も利用して大盛況 ぶらりと立ち寄って話せる居場所は理想のカフェ



読み聞かせ会の話し手、山本康江さん 豊かな表現に魅了されました



▲カフェオリジナルのコースターも作成



▲各テーブルには「メッセージノート」もご用意 SNSと違う“時間差”のやりとりはいかが？



▶テーブルでは、団体さんのワークショップや相談会なども



▲「女性新人議員さんとおしゃべりカフェ」(11/12) フランクで肩肘はらない会話がごちそうでした

▲「ハロウィンブラックカフェ」(10/27) 公開NGの本音トークが炸裂!?

「市民主役フェス」は2024年も開催される予定です。
さあ、今度はどんな仕掛けが私たちに楽しませてくれるのかな？

全国的にも、なかなか見られない形の「賞(アワード)」。企画や運営にも試行錯誤の部分は残されていますが、今後もよりよく発展してほしいですね。

受賞者のご家族も含めて盛り上がりました。

授賞式の後には、受賞者も参加しての交流会もあり、市長やスタッフ、受賞者のご家族も含めて盛り上がりました。

アワードは、その活動の素晴らしさを内外に発信するだけでなく、その尊さを、家族や、関係者や、市民同士で共有できる場にもなったようです。

推薦者のコメントや、紹介ムービーも、ユーモアや洗練された雰囲気を通じて、受賞者の「人となり」を身近に感じさせてくれました。

フェスの最後を飾り、また、メインイベントだったのがこのアワード。
10月のデザイン展までに推薦を受けて、実行委員の厳正な審査で選ばれた4名が12月9日(土)に活動発表と表彰に臨みました。

『身近なスゴイ人を
市民の推しで表彰!』



冬晴れに映える会場を外から
見上げる(鯖江市文化の館)



今年度の受賞者の皆さん
左から、代田雅揮さん、上嶋睦美さん、渡邊康世さん、岩原義明さん



▲司会の元ザ・ルーズドッグス
前田一平さんも大活躍

照明を落とした会場で上映された「受賞者紹介ムービー」洗練された雰囲気、特別感も高まりました



▲会場とところせましと展示されたデザインパネル

A1サイズ、30団体の紹介パネルは圧巻!



▲「ミッション」に使ったワークシート
写真・マークと団体名をつないでね



▲ガチャには時々行列も...



▲「ミッション」受付にはご家族づれも次々と



▲子どもたちからお年寄りまで、しっかり会場のパネルを確認

『知らなかった!
こんなにあるんだ』

デザイン展のメインは、鯖江の「市民主役」を担う市民活動団体さんの紹介パネルです。

たくさんの中から30団体という制限がある中、全てのジャンルをカバーできたわけではありませんが、まだ「市民主役」に関わりの薄い皆さんにも興味を持ってもらえそうな活動に着目し、会場全体に展示されました。

市民活動やボランティア未経験の方へのアピールや、団体のキャッチフレーズ、活動に関わるSDGsのアイコンなども表示したパネルは好評でした。また、パネル内の写真やマークと、団体名を線でつなげる「ミッション」にチャレンジすると、オリジナルグッズなどがもらえる「ガチャ」も楽しめました。

アンケートで多かったのが「鯖江にこんなに団体があったのに驚いた!」というもの。初めてNPOセンターを訪れた来場者にも、鯖江の市民活動の底力を知ってもらえたようです。

パネルの内容をまとめた「図録集」も配布し、インスタグラムでも個別に紹介するなどの企画も実施しました。

コラム

「市民主役」について考えましょう

～「市民主役」ってどんな社会？～

認定特定非営利活動法人 さばえNPOサポート
理事長 八田 登師男



さばえNPOサポートが発行するO
SANPOも、はや12歩目を数える
こととなりました。
これまで、ボランティアやNPO、
市民主役所などについて考察を述べて
きましたが、今回は「市民主役」につ
いて考えたいと思います。

■「市民主役」な状態とは？

鯖江市では、前任の牧野市長の時か
ら「『市民主役』のまちづくり」など
「市民主役」と言う言葉が頻繁に使わ
れてきました。
じゃあ「市民が主役になっている状
態」ってどんなんでしょう？
一言でいってしまうと、一人ひとり
の鯖江市民が時にはグループ化し、時
には一人であっても、自分たちに住み
よい社会を共に造りあっている社会が
「市民が主役になっている状態」と考
えています。

市民と言っても、年齢・性別・考え
方や価値観などなど鯖江市民一人ひと
りは全く別々です。

「自分たちに住みよい社会」と言う概
念も、それぞれ違うと思っています。
また、「自分たちに住みよい社会」
を造って行く手法もいろいろあると考
えています。

市議会議員に理解を求めて、議事を
通して実現を目指す人もいるでしょう
し、同じ問題意識を持っている人同士

市長をトップとした行政についても
「市民が住みよい社会」を造って行く
ために努力をされています。少なくと
も民主主義のこの国においては、行政
の仕事とは、もともとそうあるべきも
ののほずです。

「市民主役」を実現するためには、
市民と行政は「車の両輪」だと思っ
ています。

ただ市民一人ひとりが別であるよう
に、市民と行政も、その視点、能力、
好き嫌いなど様々な点において別なの
です。

当然、得意不得意な分野があり、そ
れを補い合うことが「住みよい社会」
をつくるための王道でしょう。

■育ててきた財産

これまで、他の市町で市民活動に携
わっておられる方々と話をしているも
鯖江市役所の方々の市民に対する傾聴
姿勢や柔軟性に対して讃嘆しておられ
ました。

市民と行政が協力し合いながら地域
を盛り立ててきたと言う点においては、
鯖江は全国からも目置かれる歴史を
持っています。これは、我々市民にと
っても、地域全体にとっても、かけが
えない財産です。

「車の両輪」の話で言えば、ふたつ
の車輪は（多少のギクシャクはあった
かもしれませんが）ちゃんと一緒に回

が集まって解決策を考え、行政の協力
も得ながら実現を目指す人もいるでし
ょう。もしかすると、仲間うちだけで
課題を解決してしまうような人だっ
ているかもしれません。

どのような手法が良いという正解が
あるとは思っておりません。

実現を目指す事業等が公益的なこと
であれば（違法もしくは他の人に迷惑
をかけるような手段でなければ）どの
ような手法・手段を使っても良いと思
います。

もちろん先ほど書いたように、市民
一人ひとりとは別ですので、「自分たち
に住みよい社会」を造りたいと言う願
望はあっても、一人ひとりに温度差が
あることも念頭に置かなければなりま
せん。

一人ひとりにそれぞれの事情がある
ことを認識しておく。
それが「市民主役」であるための、
極めて大切なポイントなのです。

■「市民主役」に必要な「ト

以上のことを念頭に置いたうえで、
「市民が主役の社会」に必要なこと
について考えてみたいと思います。

市民の側では、自律（自らを制御し
て行動すること）を前提とした提案力
と行動力、そして責任感と考えていま
す。（提案はしたけど誰かがやるだろ
う、では誰も動きませんからね。）

ってこられたと言うことでしょう。
そして車輪が回り続けるために大切
なのが、「両輪をつなぐ「車軸」です。
車軸が折れてしまっただけでは、車は
どこにも進めません。

では「市民主役」の社会において、
その「車軸」にあたるものはなん
でしょう。

それは市民と行政の間の信頼であり、
コミュニケーションではないでし
ょうか。

そして、実は我々さばえNPOサポ
ートのような「中間支援組織」の役割
も、その「車軸」に当たるのだらうと
思っています。

時代が変わり、社会情勢も日々揺れ
動く中、先人たちは鯖江の両輪を回し
続けてきました。

今、それを任されているのは我々
です。
今後このような関係を維持、拡大、
そして時には検証しながら、共に信頼
し合って鯖江市を「市民主役のまち」
にして行きたいと思っています。



つくる、市民主役

サバヌシ総会2024

主催…サバヌシ総会実行委員会
共催…鯖江市
日時…令和6年3月26日(火) 18時30分～
場所…鯖江市民活動交流センター



「自分たちのまちは自分たちでつくる」を合言葉に、まちづくりの根幹となっている『市民主役』。それは鯖江市の新ブランド戦略「つくろ、さばえ」の一役も担うキーワードです。

そんな10年以上掲げているとっっても大切な存在のはずなのに、いつの間にか関心も意味もぼやけてしまっただけではないでしょうか。

2024年のサバヌシ総会は、そんな今だからこそ『市民主役』を創りなおすべく！

「市民・行政なんて垣根は取り払って本音で話し合ってみよう。」
「市民のアイデアを実現するには行政の後押しが必要不可欠。だからこそ自然体で話し合える場が必要だよ。」
そんな想いでスタートしました。

『新しいタイミング 新しいサバヌシ』

3月26日火曜、平日の18時30分開始にも関わらず、集まった人数は総勢50名以上。忙しい時間帯にこれだけの人が集まってくれたことに驚きです。

感謝の気持ちを含めて、株主配当代わりの鯖江新名物(?)「さばやき」を配り、開会までの時間は2023年12月9日に開催された「さばえ市民主役アワード2023」受賞者の紹介ムービーを見ながら過ごします。甘いおやつのお楽しみ効果もあったに



大好評だった「さばやき」

違いありません。初めましての各テーブル顔合わせは、ほっこりした雰囲気になりました。



フェスに習ってセルフカフェも

『CWS』

そして、定刻通りにコミュニケーション・ワークショップがスタート。いつもと違って「コミュニケーション」がついているのは、参加者同士のやり取り自体にも意識を向けて進めて

行きたいから。

ここからは少し空気が変わり、皆さんサバエの株主サバヌシの顔つきに。「環境、教育、福祉、地場産業、交通、IT化」の中からテーマを選択。現状の課題を洗い出し、その解決策を練っていきます。

お決まりのメンバーじゃない話し合いだからこそ、色んな考えが飛び交い、立ち上がって熱弁するほど白熱しているテーブルも。



▲笑顔と白熱のコミュニケーションセッションWS

『笑顔とアイデア』

それにしても、今回のサバヌシ総会ほどにかく笑顔が多い！
相手の意見を否定や攻撃しないが約束だからこそ、各テーブル、自分のペースで思いを発信出来ている様子。一人では実現不可能なアイデアも、誰かのアドバイスが加わり、行政の経験値が混ざりあうことで、新しい視点

が生まれることも。もしかしたら、そのアイデアが市長の耳に届いちゃう可能性だって！

『未来の選択肢を増やす』

約2時間の今回のワークショップでも面白いアイデアが幾つも生まれてきました。

- ◆ 公共交通機関とコラボ、乗り物の利用者に鯖江の魅力を含め込んだガチャガチャを提供
- ◆ 「日本一道徳心のあるまち鯖江」を目指し、大人も子どもも学べる場所を
- ◆ 駅前を活性化し、点から面へ観光ルートを整えて、観光客や若者へアピール
- ◆ 世代を超えた繋がり
未来の子どもたちへ大人の知恵を伝えるまちづくり

今の鯖江に足りないものは何か。どうするとより良い未来を選び取れるのか。
自分たちが住んでいる、そして関わっている街をもっと魅力にしたい。
どの意見にも鯖江愛が感じられます。

『面倒…だけどそれがいい』

タイプ・コスパが重視され、画面越



▶佐々木市長も来場

この記事を読んでくださったそのあなたも、次回のご参加ぜひお待ちしております。

このSNSがコミュニケーションの中心になっている頃。
指先だけで繋がれるのに顔と顔を合わせて会話することって、ちょっと面倒？
だけど、同じ会場の香り、温度、空気を感じながら話すのはやっぱりどこか違います。
堅苦しい書類なんて必要ないサバヌシ総会で、市民・行政関係なく、顔を合わせてお互いの話を聞いてみませんか。
あなたが抱えている困りごと、要望や疑問点は、実は鯖江をよくするためのアイデアの欠片(かけら)。
欠片が集まると、きっとそこには大きな何かが生まれます。



たくさんのニューカマーさんたちもグッジョブ！



▲今年は中学生のサバヌシも堂々発表！頼もしい！！

市民が主役のまちづくりSABAE
<https://sabae-npo.org/shiminsyuyaku/wp/>

詳しいレポートはホームページでも



※Web上では、各グループが発表で使った模造紙を、わかりやすいチャートにした全資料も公開中☆

今、鯖江の“市民主役”には『アレ』が足りない

なんとなくギクシャク

▲ 今回のOSANPOは「市民主役フェス」や「サバヌシ総会」とかのイベントレポートが中心だけど、どちらもNPOみたいな市民と行政との連携事業ですよ。

● 実は冊子全体の柱として、そんな協働の実例を通して、今の鯖江の『市民主役』を見直せないかなって裏テーマみたいなのもあったんですよ。

▲ あ、そうなんです。毎年同じように実施してるものだから、そんな距離感だったら、市民とか行政とかに関わりなく、信頼できる気がする。

■ から、そう特別に意識してませんでした。(笑)

▲ そうだなあ。

● いわゆる「NPO法」ができて、もう25年以上になるけど、当時とは、市民サイドも行政サイドも意識や関係性が変わって来たかもしれないよね。

▲ あくまで現場感覚だけど、いろんな意味で「安定」しちゃったとか「固定化」しちゃったとかのちょっとした閉塞感?…みたいなのはないですか?

■ もちろん、その全部が悪いとは思

● わないけど、イイ意味での流動性みたいなのが無くなっちゃったように感じてる人は多いかも。

▲ 「決められたことをやっています」…みたいな?

● そう、きつとね。

▲ あと表現しづらいんだけど、特に市民活動団体と行政の間での、何だか居心地の悪い「ギクシャク」みたいな感触というか…

● おそらく、両方とも「これが正しい」って思ってるんだらうけど、相手は「♪違う違う、そうじゃない♪」って感じ?

▲ (笑)

机上VS現場?

■ それ、おそらく、それぞれの思い込みが先行しちゃうからじゃないかな。システム化やマンネリで、お互いの大事にしてるものの確認がおろそかになってるみたいなの、わかります。

▲ あと、評価のモノサシの違い? っていうと?

● 参加人数みたいな「数字」とかを重要視しすぎて、それ自体が目的化しちゃうと、現場を担当してる側のモチベーションとかダダ下がりになっちゃう。(苦笑)

▲ まあ、数字がわかりやすい指標なのは間違いないから、例えば行政がこだわるのは理解はできるよ。市民側だって、たくさん人が集まったら、そこをアピールするしね。とはいえ、「集客数が多かった」イベントの目的が達成された「ってことじゃないから、その点は、ちゃんと意識しないね。

● その場の雰囲気とか、交わされた話の内容とか、そこにいないと分からない価値もたくさんあります。机上での計画や数字にこだわると、そういう現場感覚が薄れちゃうのかもなあ…

▲ 逆に、現場を共有できてれば最初言ってる「ギクシャク」みたいな感覚って、かなり解消できる気がするんだよね。

結局足りないのは「アレ」

■ そこなんだと思うよ。

▲ 『市民主役』って、市民と行政の「信頼関係」がなかったら、間違いなく破綻するものだから。もし『市民主役』に関わってて、違和感や居心地の悪さを感じるとしたら、そこに一番足りないのは「信頼」そのものかなって。

▲ あー、納得。

● でも、信頼関係ってそう簡単には育たないですよ。え。

▲ あー、それも納得。

■ そのあたりは、なんだろう…結局は「コミュニケーション」?

■ でのギャップとかもあるし、コミュニケーションの方法も、現場で感じながら、変化や適応させ続けるのが重要ってことですかね…

▲ 『市民主役』に限らず、システムや前例にかまけて「更新」しないっていうと、関係性なんて簡単に壊れちゃうよ。

● でも…私とか、話すの苦手な方だから、コミュニケーション方法を更新するとか難しそうで…

▲ いや、話すことより「ちゃんと人の話を聞ける人の方が、コミュニケーション」って説、あるよ。

■ そうそう。お互い主張し合うだけなんて、コミュニケーションじゃ

▲ ないもの。

● ですね。しっかり聞いてくれる人の方が「信頼」できそう。

▲ きつと一番大切なのは、お互いにリスペクトしながら「傾聴」し合うことじゃないかな。

■ なるほど。お互い尊敬の気持ちを持ちながらってのがキモですね。だったら尊敬の「敬」で「敬聴」ってのはいかがですか?(笑)

▲ おおー。(笑)

● おあとがよろしいようで

「傾」↓「敬」

▲ 考えてみたら、コロナ禍で一番ダメージ受けたもののひとつがコミュニケーションだったなあ…。

● 直接会いづらかったし、マスクで表情も隠れちゃうし。

▲ リモートでの工夫とかも普及したけど、同じ空間を共有してるのは別物だからね。

■ ましてやメールとかだと、本当にニュアンスとか伝わりづらいうから「〇(まる)ハラ」みたいに、世代



広報メンバー募集!!

あなたもいっしょに『OSANPO』を作ませんか?
人とお話しするのが好きな方、文章を書くのが好きな方、デザインやイラスト作成が好きな方など、ぜひお気軽に事務局までご連絡ください。
待ってまーす!

【ご連絡先】
■ さばえNPOサポート事務局
TEL: 0778 (54) 7055
Eメール: info@sabae-npo.org





●『OSANPO』では、これからも鯖江の市民活動団体さんを、どんどん掲載させていただきたいと思っています。「ぜひ、私たちのことも取材して!」という団体の皆さんは、さばえNPOサポートまでご一報ください。

●『OSANPO』の制作&発行には、皆様からのご寄付(賛助会費)の一部を使わせていただいています。



『OSANPO~12歩目~』
 ●2024年3月 初版発行
 ●発行人：広報委員会
 ●発行所：認定特定非営利活動法人
 さばえNPOサポート
 福井県鯖江市長泉寺町1-9-20
 TEL:0778-54-7055
 FAX:0778-54-7058
 E-mail: info@sabae-npo.org
 ●https://sabae-npo.org/

